

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A4 薬と生命科学を理解するための基礎科学		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	くすり ～過去・現在・未来～	病気と薬を考える	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	田中 正一	責任部局	医歯薬(薬学系)
趣 旨	“生命とは何ぞや”という間に、明確な答えは無いかもしれませんが。しかし命ある地球上の多様な生物は、化学物質で構成され、すべての細胞や組織では、複雑な化学反応系によって、高次の生命活動が営まれ、統御されていることは、明確です。薬は、これらの生命活動に直接関与することによって生体内の化学構造や機能の異常を改善するために用いられて来ました。また、一方で、期待されない障害を与えたことも事実であり、それもまた薬の本質ともいえます。これまでの人類の病気との戦いの中で、発見された薬の歴史も振り返りながら、生命現象と薬のかかわりを学習することにより、生命とは何かを科学的に思考したいと思います。		
学生の皆さんへのメッセージ	人類が、薬を見出し、使用してきた歴史は古く、薬と共に歩んできた長い道のりは文化史の一部とも言えます。本科目では、どのような薬を飲めば病気が治るのか、どのように使われるのか、といった実用上の知識を得ることを目標にしているのではありません。薬が生体にどのように作用し、病気を治癒することができるのか、どのようにして開発されてきたのか、を正しく理解するためには、化学物質である薬、生体のしくみ、病気の原因などの基本的な知識が必要です。モジュール I では、これらの知識をわかりやすく、そして正しく理解できるように工夫します。また、モジュール II では、その知識をもとに、薬を科学的かつ歴史的側面からも見つめ、演習、簡単な実験も交え、学習します。薬というキーワードで、生命現象を共に考察してみませんか。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
ビギナーのための有機化学	田中 正一 大庭 誠 山田 耕史 真木 俊英	有機化合物は、ヒトの生活に欠かせない衣類、食品、医薬品等様々なものの原料となる。さらに、生命現象も有機化学反応が織りなすものといえる。この講義では、有機化学の基礎を学ぶ事で、生物の営みや自然現象を有機化学の視点から正しく理解し、説明できる力をつけることをねらいとする。	元素・炭化水素・官能基・触媒
ビギナーのための物理化学	梶島 力 甲斐 雅亮	自然科学の分野において、物理学の果たしてきた役割は大きい。この講義の前半では、物質の性質や状態変化などを数量的に取り扱う熱力学について、後半では、生体成分(核酸やタンパク質)を中心に、その物性や機能解析において、物理学がどのように利用されているかを原理・応用両面から理解することを目的とする。	熱力学、エネルギー、DNA、RNA、タンパク質
ビギナーのための生物学	岩田 修永 城谷 圭朗 武田 弘資 尾崎 恵一	細胞やその構成成分、エネルギー代謝、細胞の機能と恒常性の維持、DNA や遺伝子の働き、酵素の働きなど、生物学の基礎やがんなどの疾病の病態メカニズムを学ぶ。さらに、これらの最新の知見をもとに開発された最先端医薬品(バイオ医薬品を含む)や診断法を例示し、その応用について科学的に考察する機会を持つ。	遺伝子・酵素・細胞の機能、発がんのメカニズム、創薬研究、診断法開発、遺伝子治療

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用	
ビギナーのための有機化学	○	○	○						◎	○				◎	○	
ビギナーのための物理化学	○	○	◎	○	○	○	○		◎					◎	○	
ビギナーのための生物学	◎		○	○	○		◎		◎		○			◎	○	
◎(特に重視)の数	1	0	1	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	3	0	
○(重視)の数	2	2	2	2	2	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A5 リスク社会を理解する ～ 医療と健康、社会科学、科学技術		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	安全で安心できる社会 : 医療、災害とインフラ、環境リスク		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	松田 尚樹	責任部局	全ての学部
趣旨	<p>今日、テロ、自然災害、原子力、医療事故、モラル・ハザード等々、日常を取り巻く危険や不安が私たちの回りには蔓延しています。このような危険や不安に、どのように対処していけばいいのかわ、何をなすべきか、どう考えるべきかについて学び、危険や不安のない社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養することを目的としています。安全は危険や事故に遭遇したときに意識するもので、普通の状態ではつい見逃してしまうものですが、一方で、普段の取り組みが重要となります。安全は与えられるものではなく、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのかわ、自らが考えることを教育目標としています。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>一定のリスクは常に存在します。システムの中で安全は絶対的な価値として追求されなければなりません、それで安心が保証されることは避けるべきです。なぜ？ そのからくりを、自然科学、社会科学の両面から解き明かします。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
健康と医療の安全・安心	松田 尚樹 大沢 一貴 中山 守雄	五感で感じないうちに我々に忍び寄り、健康に重篤な影響を及ぼすこともある放射性物質の拡散や感染症の拡大は、人々の安全と安心を大きく揺るがしてきた。本授業では、放射線と人獣共通の感染症を基礎医学生物学及び薬学の観点から正しく理解することを狙いとして、その本体、健康リスク、予防、診断及び治療などに関わる基礎知識を習得する。	動物実験と感染症、放射線の利用と健康リスク
リスク社会と社会科学	片山 朗	社会保障 (social security) 制度や労働市場の改革、教育をはじめとした安全策 (safety net) の拡充などにより、「チャンスを見つけやすい社会」を目指すとともに、新たなコミュニティを基盤とする「互いに認め合い交流しやすい社会」を再構築していくことの重要性を理解する。	格差・貧困、地域コミュニティ、経済社会システム、共生社会・消費者市民社会
科学と技術の安全・安心	林 秀千人 田中 俊幸 久保 隆	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。	科学技術の安全、システムの安全と安心、安全文化と安心

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎
自己成長志向	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
批判的思考	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
相互啓発志向	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自己表現	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
行動力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会貢献意欲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本語力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
英語力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
基盤的知識	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
環境の意義	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
多様性の意義	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人文科学の内容を取り扱う	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会科学の内容を取り扱う	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代的な話題を取り入れる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アクティブ・ラーニングの活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
◎(特に重視)の数	1	1	1	0	2	0	0	1	0	3	0	1	0	1	1	1
○(重視)の数	2	0	2	2	1	0	3	2	0	0	1	1	0	0	2	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A6 核兵器のない世界を目指して		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	私たちと核兵器廃絶	核兵器廃絶へのアプローチ	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	中村 桂子	責任部局	核兵器廃絶研究センター
趣 旨	<p>広島・長崎の被ばくから 70 年を経てなお核兵器の廃絶と恒久平和の実現は人類の悲願であり続けている。その中で世界唯一の被ばく医科大学を創基に持つ長崎大学として「核なき世界の実現」は大学の存在意義の根源に関わる課題であるが、長崎大学に学ぶ学生としても共有すべき認識となることを願う。</p> <p>本モジュールでは被ばく地長崎で、広島・長崎の悲劇を二度と繰り返さないために、世界から核兵器を廃絶するために必要な具体的な知識やアプローチを、様々な角度から学び、考察する。その際、国際政治学・国際法・社会学・倫理学・教育学・医学・平和学など幅広い学問分野の基礎にたつて学び、考察する。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>2009年4月、アメリカのオバマ大統領は「核兵器のない世界」をめざす、と世界に訴えました。各国の指導者層からもそれを支持する声が次々にあげられました。多くのデータが、核兵器廃絶を求める人々が世界のマジョリティ(大多数)であることを示しています。しかし、世界には未だ約 1 万 6 千 4 百発もの核兵器が存在し、その廃絶に向かう歩みは遅々としています。被ばく者をはじめ、世界中の市民が訴えてきた核兵器廃絶がなぜ未だに実現できないのでしょうか。そして、どのようにすれば実現できるのでしょうか。本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ」に答えるとともに、「過去」「現在」「未来」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりをみなさんと考えていきたいと思います。長崎大学に学んだことの証となるような特色のあるモジュールです。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
核兵器とは何か	中村 桂子	「核兵器」とは何か、その基本的な仕組み、広島・長崎での実際を含むその効果、兵器そのものや抑止概念、核兵器政策、運用体制の歴史的変遷と現状、核軍備管理・軍縮・不拡散努力の歴史と現状などを学ぶ。	核兵器、軍備管理、軍縮、不拡散、抑止
国際社会と平和	近江 美保	「核兵器」はなぜ生まれ、今も維持されているのか。その背景にある国際社会の特徴と「平和」を実現するための様々な取組みについて学び、現代のグローバルな社会における平和とは何かを多様な視点から考える。	国際社会、平和、紛争、安全保障、人権
被ばくと社会	鈴木 達治郎 奥野 正太郎 関口 達夫 平野 伸人	長崎における被ばくの歴史、報道にみる社会への影響、被ばく体験の継承の実際を基礎知識として学び、被ばく体験の継承における問題点について考える力を養うために学生同士で話し合う。	原爆、報道、被ばく体験継承

全学モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う 人文科学の内	容を取り扱う 社会科学の内	を取り入れる 現代的な話題	アクティブ・ラーニングの活用	
核兵器とは何か	◎	◎	◎	○	○	○	◎		◎		○		◎	◎	○	
国際社会と平和	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎		○		◎	◎	○	
被ばくと社会	◎	◎					◎		◎	○			○	○	○	
◎(特に重視)の数	3	3	2	1	0	0	3	0	0	3	0	0	0	2	2	0
○(重視)の数	0	0	0	1	2	2	0	1	0	0	1	2	0	1	1	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A7 暮らしの中の科学 1		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	暮らしの中の科学 2		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	藤村 誠	責任部局	工学部
趣 旨	<p>自然の偉大さや美しさに驚きや感動を覚えた経験はありませんか？人類は古くから、自然現象を理解しようと多大な努力を重ねてきました。自然現象は、私たちの生命維持に不可欠な食料・資源の源になったり、時には甚大な災いをもたらすこともあります。そのため、私たちは生きていく上で、自然現象を正しく理解していく必要があります。自然科学とは、自然界で起きる様々な事象の法則性を明らかにする学問です。つまり、自然現象をいかに抽象化し、近似するかを模索する学問です。一方、技術とは、それらの成果を巧みに利用して人間社会に役立てるための仕組みを作ることです。自然科学と技術の発展によって、我々の生活はとても豊かになってきました。科学技術の限界や危険性を正しく認識すると共に、謙虚な姿勢で自然現象の真理を見抜く目を養うことは、私たちが暮らしていく中で、とても重要なことです。</p> <p>本テーマでは、高校において修得しておくべき自然科学の内容を、大学生の視点から多面的に意味づけ再整理した上で、科学的な思考法と方法論の基礎を学び、身の回りの生活や先端科学技術と自然科学との関わりを理解していくことを目標としています。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学や物理、化学、生物が苦手な方も大歓迎です。</li> <li>・共通ルール(定義)はしっかり覚える必要がありますが、それ以上の暗記は必要ありません。</li> <li>・自然科学を学ぶことは、“自然現象の言語”を学んでいると言えるかもしれません。</li> </ul>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
暮らしの中の情報科学	藤村 誠 小林 透	身の回りの生活環境・社会における情報科学、特に情報処理に関係する数理科学の基礎を理解する。	離散数学、情報理論 符号化、ネットワーク
身の回りの中の物理科学	多田 彰秀 杉本 知史	身の回りの生活に関わる、力やエネルギー、流れや波などに関する基本法則を学び、それらを利用した身の回りの「ものの構造」と動作原理を理解する。	力とエネルギー 流れや波 物理に関する基本法則
環境・生活と化学	山田 博俊 木村 正成	地球環境や日常生活におけるさまざまな現象や物質の振る舞いを、原子・分子のレベルから系統的に理解する。	原子と分子、環境・エネルギー、有機生命化学、医薬品合成

全学モジュールの 目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う 人文科学の内	容を取り扱う 社会科学の内	を現代的な話題 を取り入れる	アクティブ・ラー ニングの活用	
暮らしの中の情報科学	◎	○	○	○	◎	○	◎	○	◎			○		◎	◎	
身の回りの中の物理科学	◎	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○		◎	◎	
環境・生活と化学	○	○	○	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	◎	
◎(特に重視)の数	2	0	0	0	3	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	3
○(重視)の数	1	3	3	3	0	2	1	2	1	1	2	1	3	1	0	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目